

- 1 妊りを母に伝へて月の道
- 2 妊りて見上ぐる桜冬芽かな
- 3 胎の子の心音はやし細雪
- 4 妊りの腹に手を置く霜夜かな
- 5 藤の房伸びて産み月迎へけり
- 6 母と来て花らんまんの昏さかな
- 7 ふらここに座り茂吉を読みはじめ
- 8 陣痛に薄暑の朝の明けにけり
- 9 新緑のあふるる中に子の産まる
- 10 生まれたる子を胸元に風薫る
- 11 甘酒に産後の肥立ち良かりけり
- 12 真ん中に赤子を置きて夏座敷
- 13 泣きやまぬ子を横抱きに早星
- 14 乳張りし乳房重たき暑さかな
- 15 老鶯を遠くに乳をふくませり
- 16 乳房吸ふ子のまなざしや天高し
- 17 乳母車押せば蜻蛉の寄りきたる
- 18 うららかや一匙づつの離乳粥
- 19 背の子をあやしつつ草引きにけり
- 20 背の子ののけぞり泣けり広島忌
- 21 乳くさき赤子受け取る良夜かな
- 22 幼子のもたれてきたり夕時雨
- 23 出張の夜の長さや冬の海
- 24 雪となる霰や米をとぎをれば
- 25 起きぬけの子の頬赤し根深汁
- 26 仕事果て大きく低し冬の月
- 27 母を待つ子の顔ふたつ雪の窓
- 28 雨降るや親子かたまり合うて寝ね
- 29 積みあげし和書に洋書に日脚伸ぶ
- 30 春闘の列のしんがり歩きけり
- 31 残業の窓より眺め鴉の巢
- 32 爆心の青きを踏みて出勤す
- 33 校正を終へて涼しき風の中
- 34 無線鳴る宿直室に昼寝せり
- 35 遠雷や夜勤を終へて米をとぎ
- 36 菖蒲湯やインクのつきし手を拭ふ
- 37 夕立のあがり原稿読みとばす
- 38 梔子の香を嗅いでをり夜勤明け
- 39 月涼し賞与袋の胸にあり
- 40 蝉時雨ふいに会議の途切れたる
- 41 新蕎麦を一気にすすり夜勤前
- 42 爽やかや雨上がりたる空の色
- 43 栗剥くや父の小言の長さこと
- 44 初刷の匂ひ職場に満ちわたり
- 45 朝顔や子が耳元にささやきて
- 46 子の影と影重なりて冬ぬくし
- 47 父と子の長さ柚子湯となりにけり
- 48 青竹の節太々と初明かり
- 49 新雪に松葉の匂ふ小径かな
- 50 絶版の古書ふところに春の宵

- 75 湯につかり卒業の歌つぶやける
- 74 夕風に一片づつの落花かな
- 73 朧夜や積み木積む子の肩薄し
- 72 カーテンの影の揺れゐる昼寝かな
- 71 つなぎたる手のぬくもりや蛍の夜
- 70 自転車を引きいて帰れり星涼し
- 69 手にとりし死にたる蝉の軽さかな
- 68 裸子の飛び回りをり青豊
- 67 星屑の増えて祭の果てにけり
- 66 原稿を読みゐて釣瓶落しかな
- 65 水底に色をとどめし散紅葉
- 64 油絵の油匂へる時雨かな
- 63 街中に星くつきりと寒波来る
- 62 菜の花に埋もれゆけり乳母車
- 61 小児科の時計響きて冴返る
- 60 湯を足して子のまどろめる柚子湯かな
- 59 朝寝して子が両脇にもぐりこむ
- 58 出勤や遠足の子とすれちがひ
- 57 勤め終えほどよく冷えし一夜酒
- 56 粉雪や車窓に映る顔見つめ
- 55 人波に逆らひ歩き年の暮
- 54 行く年の宿直室にひとりかな
- 53 激論となりし夜更けや初時雨
- 52 聞き役に徹してをりぬ草の餅
- 51 母の手をかたく握りて入学児
- 76 降り立ちし駅のホームや花ふぶき
- 77 風薫る子の前髪を切りそろへ
- 78 熱の子の眠りの深し梅雨の月
- 79 父の日の父は無言に酒酌めり
- 80 梅干の香に満ちてをり父母の家
- 81 かなかなや朝餉の卓を囲むとき
- 82 したたかに酔うて踊の輪に入る
- 83 夏惜しむ川の流れに足浸たし
- 84 熱の子のむづかり長き夜なりけり
- 85 病窓に大き鴉や秋の暮
- 86 病みし子の泣き声細し秋夕焼
- 87 添ひ寝して本読みきかす良夜かな
- 88 庭を掃く箒の音や冬隣
- 89 子どもらの深き寝息や栗を剥く
- 90 栈橋に魚寄り来て冬ぬくし
- 91 公園の静まりかへる淑気かな
- 92 どよめきにとんどの芯の崩れけり
- 93 弁当をさげ夜勤へと花の雨
- 94 車座となり春闘の会議かな
- 95 戦中を生きたる人と日向ぼこ
- 96 天井に蠅のぶつかる真昼かな
- 97 夏やせてまぶたの青くくぼみをり
- 98 たて笛の音はづれをり夏休み
- 99 泳ぎけり大き夕日に染まりつつ
- 100 散紅葉つよく踏みしめ出勤す